

地域医療構想の策定状況について

- 今後も少子高齢化の進展が見込まれる中、患者の視点に立って、どの地域の患者も、その状態像に即した適切な医療を適切な場所で受けられることを目指すもの。このためには、医療機関の病床を医療ニーズの内容に応じて機能分化しながら、切れ目のない医療・介護を提供することにより、限られた医療資源を効率的に活用することが重要。
- こうした観点から「地域医療構想ガイドライン」を踏まえ、28年度末までに、全都道府県において、将来必要となる病床数の目標に係る地域医療構想を策定を行った。この地域医療構想の中で、病床機能（高度急性期・急性期・回復期・慢性期）の別に、都道府県が二次医療圏等ごとに必要病床数の推計を行っている。

【47都道府県の病床機能報告・地域医療構想の病床比較】

